



特 別 賞



皆春荘・旧松本剛吉別邸 —近代小田原別荘文化の復元—

株式会社 CES. 緑研究所 手塚一雅・手塚悦子
株式会社建文 福田昌弘・牧野 徹
緑栄造園土木株式会社 小山健次・小林 徹
ハマー建設株式会社 濱野利幸

明治40年(1907)、山縣有朋(以下「山縣」とする)が小田原へ移住したことを契機に、多くの政財界人が政治的理由から同地に別荘を構えるようになった。こうして形成された「小田原別荘時代」は、山縣の死去および関東大震災による壊滅的な被害を受け、終焉を迎えた。本作品は、明治から大正にかけ

て小田原の別荘文化を築いたとされる山縣の邸宅(古稀庵)の一部である皆春荘と、当時の政治の情に精通し、山縣と親交があった松本剛吉の別邸として知られる2つの庭園を復元したものである。

【皆春荘】

皆春荘は、山縣によって作庭された庭園として記録されている。山の中腹に位置し、眺望に優れ、自然の風景や箱根山から相模湾までの景色を望むことができる。自然主義で知られる無鄰菴や古稀庵の風景や庭園構成に類似しており、自然の姿を取り入れた山縣の作庭の特徴がよく表れ、作庭者自身の自然観が

作品概要

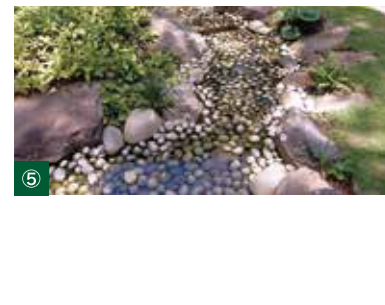
作品名——皆春荘・旧松本剛吉別邸 —近代小田原別荘文化の復元—
所在地——神奈川県小田原市
発注——小田原市文化部文化政策課、建設部みどり公園課
調査・設計——株式会社CES.緑研究所、株式会社建文
施工——緑栄造園土木株式会社(皆春荘)
ハマー建設株式会社(旧松本剛吉別邸)
監理——株式会社CES.緑研究所、株式会社建文
設計期間——2021年9月～2023年7月
施工期間——2024年4月～2025年3月
規模——皆春荘:0.28ha
旧松本剛吉別邸:0.20ha
主要施設——皆春荘:主屋、表門、滝、流れ、芝庭、アプローチ通路
旧松本剛吉別邸:主屋、茶室、流れ、芝庭、回遊式園路

作品評

本作品は、1年をかけて現況の調査・歴史的考察と多くの関係者との対話や調整を進めて整備計画を取りまとめ、翌年に実施設計、その翌年に設計監理を行った後に完成したものである。小田原市周辺では国による別荘庭園の復元も進められているが、市でもこうした歴史的風致を守り育て、賑わいと交流のまちづくりを進めている。

復元・完成したそれぞれの庭園は、緻密な歴史的考察により築造者の当初意思を十分に再現されたものと考えられ、復元された庭園の美しさが際立っている。また、施工により確認された遺構の保護・再生や、完成後の見学会などのイベントも開催されている。長年に亘る関わりの中で、応募者が総合プロデューサーとしての役割を十分果たした結果と評価された。

しかし、こうした成果も含めて、選考委員会では、設計部門への応募というより、プロジェクト全体を通したマネジメント力への評価が高く、この点から特別賞という扱いとなった。応募部門の設定については、委員会から主催者への提言がなされているが、応募者としても、惜しまれる点であった。



反映された庭園である。復元にあたっては、山縣の自然観および作庭観を現代に伝える庭園としての意義を重視した。

【旧松本剛吉別邸】

旧松本剛吉別邸は、主屋と別棟の茶室に囲まれた小田原では珍しい回遊式庭園であり、随所に煎茶を楽しむための意匠が施されている。これまで山縣が作庭に関与したと伝えられてきたが、作庭者は不詳である。庭園は部分的に改変され、流れの水源も失われているが、小田原別荘庭園の変遷を垣間見ることができる貴重な事例である。各時代の所有者による作庭の積み重ねを伝えられるよう配慮しながら、復元を行った。

【保存と活用の考え方】

庭園における作庭意図を尊重した構成を可能な限り保存し、作庭観に基づく思想を正確に後世へ伝えるとともに、庭園とそれを取り巻く文化的価値を体験できる場としての活用を図った。植栽や施設などは、古図面や古写真をもとに可能な限り復元しながら、当時の面影や利用形態に配慮した活用方法を検討した。

整備後、指定管理者による運営管理が行われ、小田原市の観光振興に寄与するエリアマネジメントの一翼を担っている。これにより、小田原の近代別荘・庭園文化を今に伝える庭園として、地域の活性化に貢献している。